

ぼうえい

東海防衛だより

2023
令和5年

秋



秋の香嵐渓（愛知県豊田市足助町）（写真提供：豊田市足助観光協会）

秋号の主な内容

- ◆ 令和5年版防衛白書
- ◆ 防衛力の抜本的強化に関する説明
- ◆ 防衛力の抜本的強化を支える東海3県の防衛生産・技術基盤
- ◆ 日米同盟の強化及び同志国等との連携強化
- ◆ 自衛隊と地方公共団体との連携
- ◆ 自衛隊音楽隊による演奏会
- ◆ 防衛施設の設置・運用に係る要望 / 各務原市新特別支援学校防音補助事業
- ◆ 「愛三岐のまちから」 愛知県豊橋市
- ◆ 若手職員の活躍

令和5年春号より、名称を「TOKAI」から「ぼうえい」に変更しました。
みなさまに我が国の防衛について「関心を持っていただきたい」「手に取って
いただきたい」という念いから、この名称にしたものです。



令和5年版防衛白書

普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家が勢力を拡大し、力による一方的な現状変更やその試みは、既存の国際秩序に対する深刻な挑戦となっており、国際社会は、戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつあります。

こうした中、防衛省は、令和5年7月28日に令和5年版防衛白書を公表しました。

国の防衛の取組は、国民のご理解とご協力を得るとともに、国際社会に対する高い透明性をもって進めていくことがもっとも重要であり、防衛白書は、こうした取組において極めて重要な役割を担ってまいりました。

地方防衛局・支局と自衛隊地方協力本部は、地方公共団体などの皆様に防衛白書をお届けしてその内容をご説明しております。令和5年版防衛白書についても、我が国の防衛についてご理解を深めていただけるよう鋭意ご説明してまいります。



令和5年版防衛白書（表紙）

右記QRコードから、
無料でご覧になれます。



この白書が、一人でも多くの方々に読まれ、防衛省・自衛隊の活動や取組に対するご理解の一助となることを願っております。

防衛白書の概要

令和5年版防衛白書は、令和4年12月の国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の三文書策定後、初めて刊行される白書であり、我が国を取り巻く安全保障環境の変化や防衛省・自衛隊の活動について、分かりやすくご理解いただけるよう、主として次の6点を重点的又は新たに記述しています。

- ① ロシアによる侵略の継続に対するウクライナによる防衛
- ② 中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向、米中競争と台湾をめぐる情勢
- ③ 三文書策定の経緯及び概要
- ④ 防衛力抜本的強化「元年」予算
- ⑤ 情報戦への対応や継戦能力を確保するための持続性・強靱性強化の取組を含む我が国の防衛力の抜本的強化
- ⑥ 防衛生産・技術基盤及び人的基盤の強化に向けた取組

また、厳しさを増す安全保障環境の中で、我が国の強固な防衛意思と堅固な防衛態勢をしっかりと発信すべく、三文書を踏まえた、我が国自身の防衛体制の強化に向けた取組について、内容を強化しています。



「まるわかり！日本の防衛」は、防衛白書の内容を小中高生の皆様にも分かりやすく説明することを目的として作成しています。

現在の日本の周りの安全保障環境や防衛省・自衛隊の取組について、分かりやすい言葉を使って解説しています。

右記QRコードからアクセスしてみてください。



「まるわかり！日本の防衛」
PDF版



「まるわかり！日本の防衛」
Web版



防衛省
キッズサイト

わが国周辺の安全保障環境の変化

わが国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。このままでは、わが国の安全は危ぶまれない。わが国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。このままでは、わが国の安全は危ぶまれない。

2013年以降のわが国周辺国などの軍事動向など (初めて確認された事象を中心に)

北朝鮮

わが国の安全保障にとって従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

ロシア

わが国を含むインド太平洋地域において、中国との戦略的な連携とあわせて安全保障上の強い懸念

中国

対外的な姿勢や軍事動向などは、わが国と国際社会の深刻な懸念事項
これまでにない歴史的な挑発

2016年以降、中国は日本海に軍用機を飛行させ活動の範囲を拡大・活発化

2013年以降、中国は太平洋に軍用機を飛行させ活動の範囲を拡大・活発化

南シナ海での力による一方的な現状変更及びその既成事実化を推進

台湾周辺における中国の活動が活発化

2022年12月に国家安全保障戦略が閣議で承認された。この中で、我が国の安全保障環境は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。このままでは、我が国の安全は危ぶまれない。我が国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している。このままでは、我が国の安全は危ぶまれない。

国防費の高い水準での増加を背景に、海上・航空戦力や核・ミサイル戦力を中心に、軍事力を広範囲かつ急速に強化しています。



核・ミサイル開発が急速に進捗。弾道ミサイルに核兵器を搭載してわが国を攻撃する能力も保有していると考えられます。



核戦力を含む各種装備の近代化を推進し、北方領土及び千島列島に新型装備を配備するなど軍備を強化しています。また、中国との共同活動を活性化させるなど連携を深める動きがみられます。

この10年で北方領土を含む機密に新型装備を配備。ミサイル戦力を増強

弾道ミサイル (I/BAS) 5-355 戦術機

2016年新型戦術機

2014年新型戦術機

わが国は、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しています。国民の命と平和を暮らしを守り抜くためには、その厳しい現実と正面から向き合い、相手の能力と新しい戦い方に着目した防衛力の抜本的強化を行う必要があります。防衛力の抜本的強化とともに国力を総合した国家全体の防衛体制の強化を、戦略的覚悟を持って一体として実施することこそが、わが国の抑止力を高めることにつながります。

この厳しい現実のもと、政府は、1976年以降6回決定してきた「防衛計画の大綱」に代わって、わが国の防衛目標、防衛目標を達成するためのアプローチ及びその手段を包括的に示す「国家防衛戦略」を策定しました。本戦略は、戦後の防衛政策の大きな転換点であり、中長期的な防衛力の強化の方向性と内容を示すものです。その意義について国民の皆様への理解が深まるよう政府として努力してまいります。

防衛上の課題

ロシアがウクライナを侵略するに至った軍事的な背景としては、ウクライナがロシアによる侵略を抑制するための十分な能力を保有していなかったことにあります。

高い軍事力を持つ国があるとき侵略という意思を持ったことにも注目すべきです。脅威は能力と意思の組み合わせで顕在化する。意思を外から正確に把握することは困難であり、国家の意思決定過程が不透明であれば、脅威が顕在化する素地が常に存在します。

このような国から自国を守るためには、力による一方的な現状変更は困難であると認識させる抑止力が必要であり、相手の能力に着目した防衛力を構築する必要があります。

また、新しい戦い方が顕在化するなか、それに対応できるかどうか今後の防衛力を構築するうえで大きな課題です。わが国の今後の安全保障・防衛政策のあり方が地域と国際社会の平和と安定に直結します。

顕在化する新しい戦い方

弾道・巡航ミサイルによる大規模なミサイル攻撃

- 飛来するミサイルを回避し、わが国に被害を及ぼさないようにすることが必要
- 相手のミサイル発射を抑制し、ミサイル攻撃を行いにくくすることが必要
- 艦隊や海空軍などにミサイルが攻撃しても、被害を最小限に抑えつつ、迅速に復旧するなど粘り強く戦う必要

情報戦を含むハイブリッド戦

- 悪質な情報を速やかに検知し、その影響をできるだけリアルタイムに共有する必要
- 敵が攻めてくると予想される場所に、先回りして自衛隊の部隊を移動させる必要。また、危険な場所から国民を速く避難させる必要
- 偽情報の拡散などによる情報戦などに対応し、混乱などが生じないようにする必要

各種特異なことは、2022年10月に策定した国家防衛戦略に取り上げます。特にわが国自身の防衛体制の強化の部分に着目し、わが国を守るための防衛力の抜本的強化の内容について随時ご説明します。

3つの防衛目標

- ① 力による一方的な現状変更を許容しない安全保障環境を創出
- ② 力による一方的な現状変更やその試みを、同盟国・同志国などと協力・連携して抑止・対処し、早期に事態を収拾
- ③ 万が一、わが国への侵襲が生じた場合、わが国が主たる責任をもって対処し、同盟国などの支援を受けつつ、これを抑止・排除

防衛目標を達成するための3つのアプローチ

- ① わが国自身の防衛体制の強化
“防衛力の抜本的強化”
“国全体の防衛体制の強化”
- ② 日米同盟の抑止力と対処力の強化
“日米の意思と能力を顕示”
- ③ 同志国などの連携の強化
“一方国でも多くの国々との連携を強化”

防衛力の抜本的強化に関する説明



【鈴木寿明 蒲郡市長（左）への説明】



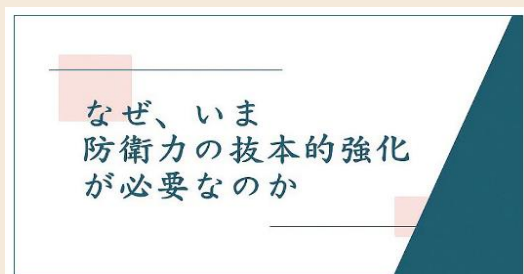
【中野正康 一宮市長（右）への説明】



【前葉泰幸 津市長（右）への説明】



【柴橋正直 岐阜市長（左）への説明】



【説明動画】



【パンフレット】



【防衛費の使い方】

防衛省では、三文書に沿って、「防衛力の抜本的強化」に取り組んでおり、多くの国民の皆様にご理解いただくために、「なぜ、いま、防衛力の抜本的強化が必要なのか」と題したパンフレットを作成しています。

東海防衛支局では、これまでに、愛知県、岐阜県及び三重県に所在する地方公共団体を訪問し、パンフレットの内容についてご説明をさせていただきました。

当支局としては、今後も、防衛施設が所在する地方公共団体はもとより、防衛施設が所在しない地方公共団体との関係構築にも積極的に取り組むとともに、広く国民の皆様にも、防衛政策への理解を深めていただけるよう努めてまいります。

本誌をご覧の皆様で説明を希望される場合は、東海防衛支局施設企画課（電話 052-952-8223）までご連絡ください。

パンフレットは防衛省ホームページ内でご覧いただけます。左のQRコードもご利用ください。

防衛力の抜本的強化を支える 東海3県の防衛生産・技術基盤

① スタンド・オフ防衛能力

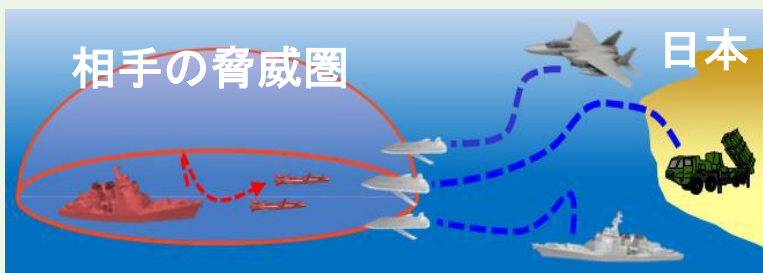
前号では、なぜ今防衛力の抜本的強化が必要なのかについてご紹介しました。今回は、防衛目標を達成するための3つのアプローチのうち、第1のアプローチの中核「我が国の防衛力を抜本的に強化」するに当たって、我が国の防衛上必要となつた機能・能力のうち、「スタンド・オフ防衛能力」とその装備品であるスタンド・オフ・ミサイルの契約状況の一部をご紹介します。

スタンド・オフ防衛能力とは

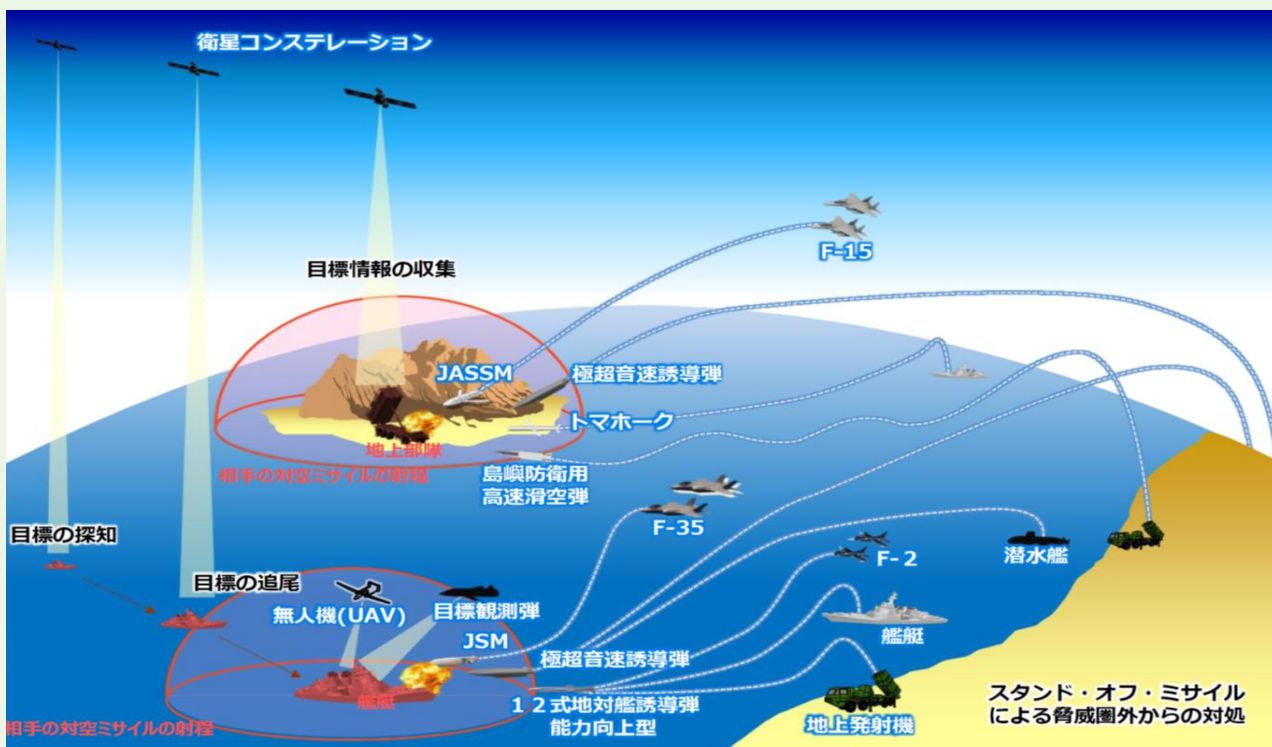
各国のレーダーや各種ミサイルの性能が著しく向上していく中、自衛隊員の安全を確保しつつ、我が国への攻撃を効果的に阻止する必要があります。

このため、侵攻する相手方の艦艇などに対して、脅威圏外の離れた位置から対処を行えるようスタンド・オフ（※）防衛能力の強化に取り組んでいます。

※スタンド・オフは、一般的には離れているといった意味。



【攻撃されない安全な距離から相手部隊に対処する能力】



【スタンド・オフ防衛能力の運用イメージ（「令和5年版防衛白書」より）】



【12式地对艦誘導弾能力向上型の開発（「令和5年版防衛白書」より）】

スタンド・オフ・ミサイル （12式地对艦誘導弾能力向上型）

スタンド・オフ・ミサイルの一つである12式地对艦誘導弾能力向上型においては、地発型・艦発型・空発型の開発や早期量産を行っています。この開発では、伸展する大型主翼を採用するなどいくつかの技術による長距離の飛ばしを可能とするような性能向上や衛星を経由した地上装置と誘導弾間のデータリンク技術の確立などを目指しています。

また早期量産では、12式地对艦誘導弾能力向上型の部隊配備を可能な限り早期に実現するため、地発型については開発と並行して量産に着手することとし、本年4月に三菱重工（株）と契約を締結し、小牧北工場にて本事業が開始されています。

日米同盟の強化及び 同志国等との連携強化 多国間航空医療搬送訓練



【患者搬送のため離陸待機中の輸送機（写真提供：小牧基地）】



【患者搬送中の各国隊員（写真提供：小牧基地）】



【テント内でミーティング中の各国隊員】

防衛目標を達成するための3つのアプローチのうち、第2及び第3のアプローチである「日米同盟の抑止力と対処力の強化」、「同志国等との連携の強化」に関して、東海防衛支局の管内で行われた防衛省・自衛隊の取組について紹介します。

航空自衛隊小牧基地（愛知県小牧市）では、令和5年7月10日から20日までの間、日本、米国、英国、カナダ、ニュージーランドが参加した多国間航空医療搬送訓練が行われました。

この訓練は、各国の航空医療搬送の実施要領や医療器材などの違いを確認することにより、相互運用性の向上、災害救援などにも有益となる知見の共有、部隊の練度の向上が期待できる重要なものです。

小牧基地には、航空輸送を主任務とする

第1輸送航空隊及び重症救急患者の長距離搬送における機上医療を主任務とする航空機動衛生隊などが所在しています。

今般の訓練では、米軍及び英軍の輸送機も参加し、傷病者救護、トリアーシ、患者搬送及び添乗救護の訓練が行われました。

また、国内において、このような多国間での医療搬送訓練が行われたのは初めてのことであり、7月19日には、報道機関及び地方公共団体を対象とした訓練公開も行われました。

当支局は、本訓練の実施に当たり、小牧基地に関係する地方公共団体に対し、その意義・重要性を説明し、ご理解を深めていただくとともに、きめ細やかに情報提供を行うなど、訓練の円滑な実施に寄与しました。

自衛隊と地方公共団体との連携

自衛隊統合防災演習／岐阜県豪雨災害対応防災訓練／南伊勢町土のう作り体験への支援

自衛隊統合防災演習

令和5年6月26日から30日までの5日間、「自衛隊統合防災演習」が実施されました。

この演習は、マグニチュード9・1（最大震度7）の南海トラフ地震が発生したとの想定の下、全国の陸海空自衛隊だけではなく、地方公共団体、防災関係機関、在日米軍及び豪軍が参加し、大規模災害発生時の対処能力の向上を図ったものです。

陸上自衛隊第10師団司令部（愛知県名古屋市）においても、各部隊が、関係機関などと連携して被災状況の情報収集・対策検討について演練し、指揮幕僚活動の向上を図りました。

東海防衛支局は、自衛隊・米軍の救助活動などが円滑に行われるよう、各種の支援と地方公共団体などとの連絡調整を担当しており、本演習に職員を派遣し、大規模災害発生時に求められる対応について理解を深めました。



【統合防災演習の様子（写真提供：守山駐屯地）】

岐阜県豪雨災害対応防災訓練

令和5年6月1日、岐阜県庁において、「令和5年度豪雨災害対応防災訓練」が実施され、災害発生時における自衛隊などの救助活動の支援を担う支局も参加しました。

訓練では、出水期前に、岐阜県、岐阜県警、県内市町村を始め、陸上自衛隊第35普通科連隊（愛知県名古屋市）、航空自衛隊第2補

給処（岐阜県各務原市）、国の機関及び民間企業が連携し、豪雨後の台風接近に伴う複合災害の発生を想定した訓練を行い、課題及び留意点を検証しました。

訓練当日は、現実に台風2号が迫っており、土砂崩れや洪水の発生が懸念される中、暴風・大雨による長期の停電や複数の孤立地域の発生を想定し、県と関係機関が連携した災害対応について、実践的な訓練が行われました。

当支局としても、関係機関との連携要領を改めて確認する有意義なものとなりました。



【災害対策本部員会議運営訓練】

南伊勢町土のう作り体験への支援

令和5年7月13日、自衛隊三重地方協力本部伊勢地域事務所は、三重県南伊勢町立南島中学校において行われた「土のう作り体験」に、町職員、地元消防団とともに参加し、全校生徒51名に対し、土のう作りの実習を通じて、自衛隊の活動や災害に対する知識を伝えました。

参加した生徒達には、地域の人々と協力して防災に取り組む意識の向上が見られました。

防衛省・自衛隊は、今後も、地域社会や住民との協力と連携の強化に努めてまいります。



【土のう作り体験の様子（写真提供：三重地方協力本部）】

自衛隊音楽隊による演奏会

ぎふ自衛隊音楽まつり（岐阜市）／渚のプラスバンドフェスティバル（蒲郡市）

我が国の安全保障を支えるためには、社会的基盤の強化が必要であり、防衛施設が所在する地方公共団体や地域住民の方々のご理解とご協力を得ることが重要です。

各自衛隊では、自衛隊に対する理解を深めていただくため、記念行事や自衛隊音楽隊による演奏会を開催したり、地方公共団体などが開催するイベントに参加し、地域の皆様と交流を図っています。

ぎふ自衛隊音楽まつり（岐阜市）

令和5年6月25日、岐阜市の長良川国際会議場で、自衛隊岐阜地方協力本部主催による第18回「ぎふ自衛隊音楽まつり」が開催されました。

当日は、航空自衛隊浜松基地（静岡県浜松市）所属の中部航空音楽隊による演奏のほか、岐阜県立東濃実業高等学校吹奏楽部（岐阜県可児市）との合同演奏も披露され、来場された約1200人の方に楽しんでいただきました。



【左：東濃実業高校との合同演奏、右：中部航空音楽隊の演奏（写真提供：岐阜地方協力本部）】

渚のプラスバンドフェスティバル（蒲郡市）

令和5年7月9日、愛知県蒲郡市で「渚のプラスバンドフェスティバル」（海・みなど・蒲郡実行委員会主催）が開催され、海上自衛隊舞鶴地方隊（京都府舞鶴市）所属の舞鶴音楽隊が参加し演奏を披露しました。

当日は、蒲郡市内のヨットハーバーなど2会場で午前・午後3回演奏会が行われ、舞鶴音楽隊のほか東邦マーチングバンド（愛知東邦大学吹奏楽団&私立愛知東邦高等学校マーチングバンド部）や蒲郡市ジュニアクラブによる演奏が行われました。

また、前日の7月8日には、舞鶴音楽隊の隊員から、愛知県立蒲郡高等学校の吹奏楽部の生徒に対し、楽器別に演奏講習会が行われ、参加した生徒からは、部活動の練習とは違った雰囲気でも楽しかったとの声が聞かれました。



【左：音楽隊員による講習会の様子、右：舞鶴音楽隊の演奏（写真提供：愛知地方協力本部）】

防衛施設の設置・運用に係る要望

防衛省の各種施策、自衛隊の活動を円滑かつ効果的に推進するためには、その拠点となる駐屯地、飛行場、演習場などの防衛施設周辺地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。

令和5年7月24日、航空自衛隊岐阜基地（岐阜県各務原市）に連する岐阜県側の4市町（各務原市、岐阜市、岐南町、笠松町）により組織される岐阜基地周辺市町村連絡協議会の皆様が来局されました。東海防衛支局は、同基地の設置・運用に伴う各種の課題に関するご要望を受け、防衛省・自衛

隊の対応を説明するとともに、率直な意見交換を行いました。

また、同月21日には、航空自衛隊小牧基地が所在する春日井市の春日井市飛行場周辺対策市民協議会の皆様が来局されました。当支局は、同基地の設置・運用に係るご要望を受け、防衛省・自衛隊の対応を説明しました。

当支局としては、防衛施設に関係する地方公共団体や住民の皆様のご意見・ご要望に真摯に耳を傾け、防衛施設と周辺地域の調和を図る施策を誠実に進めてまいります。



（左から、古田聖人 笠松町長、浅野健司 各務原市長、宮原支局長、柴橋正直 岐阜市長、傍島敬隆 岐南町副町長）
【岐阜基地周辺市町村連絡協議会】



（左から、平出会長、滝川次長）
【春日井市飛行場周辺対策市民協議会】

各務原市新特別支援学校防音補助事業



【新特別支援学校完成イメージ図】

現在の各務原特別支援学校は、知的障がいのある高等部の生徒のみを対象とした学校であるため、小中学部の児童生徒及び知的障がい以外の障がいのある高等部の生徒は、各務原市外の特別支援学校などに通学しています。

そのため、各務原市は、全ての市民がお互いに尊重しあいながら住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、小・中・高一貫の学校として、知的障がいに加え、肢体不自由や病弱などの障がいのある児童生徒を対象とした総合的な特別支援学校を新たに整備することとしました。

防衛省では、自衛隊などの航空機の離着陸などの頻繁な実施により生じる騒音の防止・軽減のため、地方公共団体などが行う学校などの防音工事に対し補助金を交付しており、新特別支援学校についても、各務原市から申請を受け、令和5年4月に補助金の交付を決定しました。

令和5年7月12日に起工式が執り行われ、宮原東海防衛支局長が出席しました。

当支局としては、令和7年4月の開校に向け、引き続き各務原市と調整を進めてまいります。



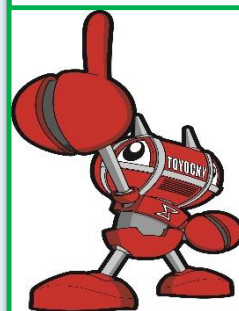
【地鎮の儀での浅野健司 各務原市長
（写真提供：各務原市）】

「愛三岐の
まちから」



愛知県
豊橋市

とよはしし



トヨッキー



あさい よしたか
浅井 由崇 豊橋市長

『私たちがつくる 未来をつくる』まちづくり

豊橋市は、愛知県の東南部に位置し、東は弓張山系を境に静岡県に接し、南は太平洋、西は三河湾に面し、豊かで美しい自然と温暖な気候に恵まれた東三河の中核都市です。

また、古くから、城下町そして東海道五十三次の宿場町として栄えてきた歴史あるまちでもあります。明治39年に、全国で62番目、愛知県で2番目の市として市制を施行して以来、全国有数の自動車輸出入港である三河港周辺に広がる臨海工業地帯を中心とした工業や、大葉、キャベツ、トマト、豚などの生産が盛んな農業を擁するなどバランスの取れた発展を続けています。

なかでも三河港は、多くの外資系企業が進出する国際物流の拠点として大きな役割を果たしています。そのほかにも、市民に親しまれている路面電車や豊

橋総合動植物公園のんほいパーク、東海の尾瀬といわれる葦毛湿原、勇壮な手筒花火、天下の奇祭鬼まつりなど、様々な魅力にあふれています。

豊橋市では、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を踏まえ、『私たちがつくる 未来をつくる』をまちづくりの基本理念とする「第6次豊橋市総合計画」を令和3年に策定しました。現在この総合計画に基づき豊橋の魅力さをさらに高め、次代へと引き継いでいくため、まちづくりに最も大切な「人を育む」ことに軸足を置き、一人ひとりが主役となり、夢と希望に満ちあふれる豊橋の創造に取り組んでいます。

具体的な「人を育む」施策としては、子育てしやすい環境の整備を目指して子育て世帯の経済的な負担軽減を図るための「保育料等の負担軽減策の拡充」、放課後の小学校を利用し、多様な体験活動を行いながら子どもの健全育成等を図る「のびるんおスクール」などを実施しています。

自衛隊との関わり

豊橋市内には、小銃などの発射訓練を行う高山射撃場があり、隣接する豊川市にある豊川駐屯地の自衛官の皆様が日々訓練に励まれています。豊川駐屯地の自衛官の皆様には、毎年度総合防災訓練においてご支援・ご協力をいただいているほか、昨年度本市で発生した鳥インフルエンザの発生に伴う防疫措置にご協力をいただきました。改めて感謝申し上げますとともに、いざというときに緊密な連携ができるよう、市と自衛隊との協力関係を更に深めていきたいと思えます。



【勇壮な手筒花火】



【全国有数の自動車輸出入港「三河港」】

若手職員の活躍

私は令和3年度に入省し、今年から施設補償管理課に所属しており、防衛施設周辺財産の管理や自治体及び民間企業などから要望があれば土地の無償、有償使用の使用許可を行っています。

有償使用手続について民間企業の方から問合せがあったときは、いつも丁寧な説明を心がけ、上手く理解を得られると達成感を感じます。

採用されて3年目ですが、別の課に異動すると分からないことが多くあり、上司や先輩方に聞くことが多くあります。過去2年間の経験を活かし、業務に効率よく取り組んでいきたいです。



私は令和3年度に入省し、現在は防音対策課に所属しており、自衛隊の航空機による騒音を軽減するため、飛行場周辺地域で行う住宅防音工事の補助金関連業務を行っています。

日々の業務では、飛行場周辺の住民の方々だけではなく、設計事務所の方や工務店の方とも頻りに連絡調整や打合せをするため、様々な方と関わる中で少しずつ自分の成長を感じています。

今後、業務を円滑に行うとともに、周辺地域の皆様とより良い関係を築けるよう、毎日の業務に励んでいきます。

私は令和4年4月に入省し、周辺環境整備課に所属しております。当該課は、防衛施設が周辺地域に及ぼす影響を緩和するため地方公共団体などが行う事業に対し補助金を助成する業務を行っており、私の係では、コミュニケーションセンターの改修や漁業用無線機器の整備などを担当しています。

補助金を助成した施設が完成すると、私の業務が地域につながっていることを実感でき、とてもやりがいを感じます。

業務を進めていく上で学ぶことが多く大変なこともあります。上司や先輩方からのサポートを受け日々取り組んでおります。1年目の経験を活かし、今後も業務に励んでいきたいです。



採用説明会について

東海防衛支局では、国家公務員採用試験（大卒程度試験）受験者で防衛省の業務に関心のある方のために、「業務説明会」及び「現場見学説明会」を実施しています。

令和5年度は、6月と7月に当支局のほか、陸上自衛隊守山駐屯地及び航空自衛隊岐阜基地において計7回・約50名の方に、職員との懇談会への参加や、実際の職場の雰囲気を経験していただきました。

東海防衛支局では、職員の採用に関する取組をホームページで紹介しています。

防衛省の業務に関心のある方は、是非ご参加ください。



令和6年度防衛省職員採用のご案内

東海防衛支局では、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験・高卒者試験・社会人試験（係員級））合格者から防衛省職員を採用しています。

令和6年度新規採用に関する採用イベントを各試験区分ごとに実施しますので、詳細は東海防衛支局ホームページなどからご確認の上、是非ご参加ください。

【高卒者試験採用イベント】

- ・10月上旬～10月下旬：機関訪問／職員との懇談会
- ・11月中旬(国家公務員試験最終合格発表後)：採用面接



東海防衛支局ホームページ
「採用情報」



<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/saiyou/saiyou.html>

人事院ホームページ
「国家公務員試験採用情報NAVI」



<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

新着任者紹介



施設補償管理課長
天木 悟

5月26日付で施設補償管理課長に着任しました天木です。

施設補償管理課は、防衛施設の取得、管理や自衛隊の運用により生ずる損失の補償などの業務を行っており、これらの業務を進める上で、関係自治体や地域住民の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。

私自身、東海防衛支局での勤務は3年ぶり3回目となりますが、初心を忘れず、気を引き締めて業務に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【発行】

東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1

名古屋合同庁舎第1号館

電話 052-952-8212

2023年(令和5年)秋号(通巻第56号)

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

